

学校だより 5月号

令和8年4月30日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045(811)6710 後期課程 ☎045(811)6030

子どもたちの「学びの質」を高めるために

校長 土谷 満

爽やかな風に新緑が映え、可憐な花々が彩りを添える、心地よい季節となりました。厳しい暑さを迎える前のこの時期を、少しでも穏やかに過ごしたいものです。

さて、4月に実施いたしました授業参観、懇談会、各種説明会には、多くの保護者の皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。子どもたちは新しい環境にも徐々に慣れ、授業に意欲的に取り組む姿が見られるようになっていきます。また、中休みや昼休みには、グラウンド等で元気いっぱい遊ぶ様子も見受けられ、たいへん頼もしく感じております。

私が本校に着任して約1か月が経ちましたが、その中で強く実感していることがあります。それは、「子どもたちの質の高い学びを保障する教育活動が、日常的に行われている学校である」ということです。施設や設備の充実にとどまらず、教育の中身そのものを大切にする取組が、着実に積み重ねられています。

横浜市全体では、子ども一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や支援を行うため、少人数学級やTT（ティーム・ティーチング）を可能とする教職員定数が配置されています。こうした制度のメリットを生かし、本校でも前期は音楽専科の教員が、後期は保健体育科や英語科において複数の教員が授業を担当し、きめ細やかな授業展開を行っています。学習状況を多面的に捉え、個に応じた支援や指導を充実させることで、子どもたちの資質・能力の一層の向上を目指しています。

さらに、他校には見られない独自の取組も行われています。自己表現力を高め、社会や未来とのつながりを考える「表現・未来デザイン科」、教員が教科の専門性を生かして行う「乗り入れ授業」、前期・後期で時間を統一した1単位45分の授業設定、たてわり活動を取り入れた全校清掃など、いずれも9年一貫の義務教育学校という特長を生かしたものです。異学年との関わりや継続的な学びを通して、学力の向上だけでなく、思いやりや主体性といった情意面の育成にもつながっていると感じています。

こうした本校の独自の取組を裏付けるものとして、今年度より「教育課程柔軟化サキドリ研究校」に指定されました。これにより、今まで以上に広がりや深まりのある教育活動を推進できるものと期待しています。

加えて、昨年度より「生成AIパイロット校」としての指定も受け、生成AIを安全かつ適切に活用しながら、児童生徒の学びの質を高める取組を進めていきます。生成AIの利活用は教育における喫緊の課題として受け止め、検証と改善を重ねつつ、子どもたちにとって必要な実践を継続してまいります。

横浜市では「第5期教育振興基本計画」がスタートし、これまで以上に子どもを中心に据えた教育の充実が図られようとしている中、本校においても、こうした施策の趣旨を踏まえ、子ども一人ひとりの「学びの質」を大切にした教育活動を推進してまいります。

今後とも、保護者、地域、関係者の皆さまの変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。